

## 令和5年度 横須賀美術館運営評価委員会

### ●横須賀美術館運営評価委員会（令和5年度第2回）

日時：令和5年（2023年）11月8日（水）10時00分～11時15分

場所：横須賀美術館 ワークショップ室

#### 1. 出席者

委員会 委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授
委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長
委員	関口 洋輔	ラビスタ観音崎テラス支配人
委員	三浦 匡	横須賀市立根岸小学校校長
委員	倉田 睦	市民委員
委員	前波 美雪	市民委員

館長	文化スポーツ観光部長	倉林 孝英
事務局	美術館運営課長	岡本 剛彦
	美術館運営課総務係長	下田 哲央
	美術館運営課（学芸員主査）	富田 康子
	美術館運営課（学芸員主査）	工藤 香澄
	美術館運営課（学芸員主任）	日野原清水
	美術館運営課（総務係主任）	下田 優美

#### 2. 議事

(1) 令和5年度 美術館活動状況中間報告について

#### 3. その他

(1) 今後のスケジュールについて

(2) モニター制度の実施案について

## 会議録

### 【開会】

〔事務局・下田哲〕：定刻になりましたので、「令和5年度 第2回横須賀美術館運営評価委員会」を開会いたします。

本日は、お忙しい中、集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、委員長に引き継ぐまで司会を担当させていただきます美術館運営課総務係の下田と申します。よろしく願いいたします。

まず、最初に菊池委員におかれましては、所用のため、ご欠席のご連絡をいただいております。そのため、本日は委員6名の方にご出席いただいております。

また、本日傍聴者はいませんのでご報告いたします。

それでは、さっそくお手元の次第に沿って、進行させていただきます。

### 【1 委員委嘱書交付】

〔事務局・下田哲〕：はじめに、委員の委嘱について、ご説明いたします。

本年9月30日をもって、前委員の任期が満了となり、改めて皆様には10月1日付けで、ラビスタ観音崎テラス支配人の関口委員には11月1日付けで委員を委嘱することとなりました。

皆様の任期は、これからお渡しする委嘱書に記載のとおり令和7年9月30日までの2年間となっております。

委嘱書は本来、市長から交付いたしますが、本日他の公務により欠席のため、これより、横須賀美術館館長 倉林より委嘱書をお渡しさせていただきます。

#### 委嘱書交付

### 【2 部長あいさつ】

〔事務局・下田哲〕：次に、館長・文化スポーツ観光部長の倉林より、ご挨拶させていただきます。

〔倉林館長〕：改めまして、おはようございます。横須賀美術館長、文化スポーツ観光部長の倉林でございます。よろしくお願いいたします。

本日は、ご多忙の中、令和5年度 第2回 横須賀美術館運営評価委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本日は、新たな委員の皆様をお迎えして開催する最初の会議となります。任期は令和7年9月末までの2年間です。どうぞよろしくお願いいたします。

横須賀美術館の運営評価制度は、美術館の運営、事業計画及び実績について、委員の皆様それぞれのお立場やご知見から評価をしていただくものでございます。

横須賀美術館は、令和4年4月に教育委員会から市長部局に移管され、さまざまな

企画を行っているところですが、引き続き委員の皆様から各種のご意見をいただきながら、より良い横須賀美術館にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

### 【3 委員自己紹介】

〔事務局・下田哲〕：それでは、次第の3番です。委員の皆様のご自己紹介をお願いいたします。

引き続きお願いしている委員の方々と、新たに委員になられた方々の初めての顔合わせとなりますので、その場でご起立いただきまして、簡単に自己紹介をお願いいたします。

それでは、小林委員から時計回りでお願いします。

〔小林委員〕：小林照夫と申します。関東学院大学に長く勤めてきて、現在もつながりがあります。専門は社会経済史で、特に港やスコットランドについてです。よろしくお願いいたします。

〔柏木委員〕：横浜美術館に勤めております柏木と申します。よろしくお願いいたします。

〔関口委員〕：ラビスタ観音崎テラスで支配人をしております関口と申します。11月1日付けで着任しました。ホテルのこと美術館のことを勉強して一緒に取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

〔前波委員〕：市民委員の前波と申します。専門は日本語教育で、地域日本語教育コーディネーターをしております。外国の方、子ども、障害のある方にとってもわかりやすい「やさしい日本語」に携わっています。よろしくお願いいたします。

〔倉田委員〕：市民委員の倉田と申します。筆文字タイトルなどのデザイン関係の仕事をしております。よろしくお願いいたします。

〔三浦委員〕：根岸小学校の三浦と申します。よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田哲〕：ありがとうございました。

それでは、お時間をいただきまして、事務局の方の紹介もさせていただきます。

〔事務局・岡本課長〕：美術館運営課長をしております岡本です。よろしくお願いいたします。

〔事務局・下田哲〕：総務係長をしております下田哲央です。よろしくお願いいたします。

〔事務局・工藤〕：学芸員の工藤です。よろしくお願いいたします。

〔事務局・富田〕：学芸員の富田です。よろしくお願いいたします。

[事務局・日野原]：学芸員の日野原です。よろしくお願いいたします。

[事務局・下田優]：総務係の下田優美です。よろしくお願いいたします。

#### 【4 委員長選任】

[事務局・下田哲]：それでは、次第の4番、委員長の選任に移ります。

新委員委嘱後、最初の運営評価委員会となりますので、委員長の選出を行います。

お手元の資料1 横須賀美術館運営評価委員会条例第3条をご覧ください。

条例第3条第1項では、「委員会に委員長を置き、委員が互選する」とあります。皆様方の中から、委員長の推薦をお願いいたします。

[柏木委員]：引き続き、小林委員に委員長を引き受けていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

[事務局・下田哲]：小林委員の推薦がございました。皆様、よろしいでしょうか。

[全委員]：異議ありません。

[事務局・下田哲]：小林委員、委員長をお引き受け願えますでしょうか。

[小林委員]：お引き受けいたします。よろしくお願いいたします。

[事務局・下田哲]：ありがとうございます。

それでは、委員長が決まりましたので、小林委員、委員長席へご移動をお願いいたします。

#### 【5 委員長職務代理者指名】

[事務局・下田哲]：次に、次第の5番、委員長職務代理者の指名に移ります。

委員長職務代理者は、資料1 条例第3条第3項にありますように、委員長が指名することとなっています。小林委員長から指名をお願いいたします。

[小林委員長]：本日は欠席されていますが、前任の菊池委員にお願いしたいと思います。

[事務局・下田哲]：それでは、委員長職務代理者は、菊池委員といたします。

#### 【6 議事（1）令和5年度 美術館活動状況中間報告について】

[事務局・下田哲]：では、これから議事に入りますが、本日の資料の確認をさせていただきます。

机上にご用意させていただきましたものは、次第、資料1「横須賀美術館運営評価委員会条例」、資料2「横須賀美術館運営評価委員会委員名簿」、資料3「運営評価システ

ム)、資料4「令和5年度横須賀美術館中間報告書」、資料5「運営評価委員会スケジュール」、資料番号は振っていませんが「横須賀美術館モニター制度の実施(案)」の7つです。

なお、参考資料「令和5年度横須賀美術館事業計画書」につきましては、今回新たに委員になられた方に配布させていただいております。

以上が本日の資料でございます。不備等ございませんでしょうか。

それでは、小林委員長、議事の進行をお願いいたします。

[小林委員長]: 新任の委員の方もいらっしゃいますので、議事に入る前に、横須賀美術館の運営評価制度について、事務局から説明をお願いします。

[事務局・下田哲]: それでは、事務局から、横須賀美術館運営評価制度について、説明させていただきます。

運営評価委員会は、美術館の運営の状況について評価を行い、改善を図ることを目的として設置されています。

美術館開館直前の平成19年3月に発足し、以降、毎年2～3回の会議を行い、平成22年3月に横須賀美術館評価システム(試行版)が完成しました。翌年度から、この評価システムに基づき、一部を修正しながら毎年度、評価を行っております。

資料3「運営評価システム」をご覧ください。横須賀美術館には、

- I 美術を通じた交流を促進する
- II 美術に対する理解と親しみを深める
- III 訪れるすべての人に安らぎの場を提供する

という3つの使命があります。その下に

- ① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。
- ② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。
- ③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。
- ④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。
- ⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。
- ⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。
- ⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。
- ⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。

という、8つの目標があり、目標に基づいた事業体系になっています。

8つの目標ごとに、数的指標として達成目標、質的指標として実施目標を立て、1年間の美術館の活動を行っております。美術館活動は、数値だけでは測れないことから、このような2つの指標を設けております。

続きまして、横須賀美術館運営評価システムの概要をご説明いたします。

資料3の2枚目、「運営評価システムの全体像」をご覧ください。

横須賀美術館の運営評価システムは、PDCAサイクル

(plan - do - check - act cycle) に基づいています。

まず、資料左の「P 計画」です。横須賀美術館には、先程ご説明した3つの使命と8つの目標がございます。この使命、目標に基づき、美術館が事業計画を立案し、運営評価委員会の委員の皆様にご意見をいただいています。

この事業計画に基づき、問題点を集約し、日常的な改善を行いながら美術館活動を行います。資料下部 中央の「D 実行」になります。

この会議では、後ほど、「D 実行」の中間報告をさせていただきます。

年度終了後に資料の右、「C 評価」を行います。美術館において自己点検による一次評価を行い、その後、運営評価委員会による二次評価を行います。評価基準はわかりやすく「S、A、B、C、D、F」の6段階で表示し、結果を公表しています。

運営評価委員の皆様からいただいたご意見は、課内の全体ミーティングなどでスタッフ全員と共有、検討を行い、日常業務に反映していきます。すぐに対応できないものは、次期計画に反映していきます。資料の上部中央「A 改善」になります。

このように、運営評価委員会の委員の皆様による評価、ご意見は美術館の運営に大きくかかわっています。

参考でございますが、美術館運営評価委員会の任期は2年間、令和5年10月1日～令和7年9月30日までとなっております。

委員のメンバーは、学識経験者、地域経済関係者、美術館関係者、地域関係者、学校関係者、公募市民委員2名、合計7名で構成しています。

会議は、年2回から3回実施し、10月頃に中間報告、翌年3月に翌年度の事業計画の説明、8月頃に前年度の評価を確定する予定です。

以上、簡単ではございますが、美術館の運営評価制度の説明とさせていただきます。

[小林委員長]：ありがとうございました。ご質問等がある委員はいらっしゃいますか。いらっしゃらないようですので、引き続き、今日の議題につきまして、事務局からよろしく願いいたします。

[事務局・下田哲]：それでは、「令和5年度 横須賀美術館 活動状況中間報告」について説明させていただきます。

この中間報告は、今までの評価サイクルを補う形で、平成25年度から実施しているものですが、年度途中で事業報告を行うことにより、委員の皆様よりご意見をいただき、事業の早期改善に資することを目的としております。

体裁としては昨年同様、令和5年度の事業計画書に基づき、評価項目ごとに9月末までの活動状況を「斜体字」で記載しております。年度途中のため、数的資料に欠けるものが多々ございますが、その点をご容赦いただきたいと思います。

それでは、お手元の資料4「令和5年度横須賀美術館中間報告書」に基づき、項目ごと一括して説明させていただきます。

[事務局・下田哲]：2ページをご覧ください。「① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる」についてです。

「1 展覧会の実施」について、【展覧会及び観覧者数（9月末）】の表をご覧ください。令和5年度企画展としては、朝井閑右衛門展、new born 荒井良二展では見込み観覧者数を上回っています。また、ロイヤル・コペンハーゲンと北欧デザインの煌めき展は、資料では9月末時点の観覧者数を記載しておりますが、先日11月5日日曜日までで会期が終了し、合計の観覧者数は「18,489人」でした。ロイヤル・コペンハーゲンと北欧デザインの煌めき展単独では見込みを少し下回りましたが、ここまで3つの企画展の合計は、66,402人となり、見込みの62,000人を上回っています。今年度、残り3つの企画展も引き続き、しっかりPRを行い、多くの方にご覧になっていただけるようにいたします。

「2 広報・集客促進事業」について、9月末時点までの実績を記載させていただきます。昨年度まではとは異なる、特徴的な部分を抽出し、報告させていただきます。

「(1) 訴求活動による集客促進」をご覧ください。上から二つ目の箇条書き、「よこすか「地元の元気」応援券 利用可能店舗一覧」「カレーフェスティバルチラシ」は、どちらも文化スポーツ観光部の別の課の事業です。これらは、美術館運営課が教育委員会から文化スポーツ観光部に移管されたことにより、よりスムーズに実施することができました。3ページをご覧ください。上から2つ目、「インバウンド推進のための外国語情報発信の拡充」について、具体的には、「国際交流・基地政策推進課を介した米海軍横須賀基地への展覧会情報発信」を新たに記載させていただきました。

「(2) イベント開催など展覧会以外の要因で利用者を増やす取り組みの推進」についてです。最初の箇条書き、「海の広場を活用した 即興アートバトル「筆ロック-関東大会 FINAL-」実施」について、こちらは横須賀商工会議所様からお声がけいただき、今年9月に初めて美術館で開催させていただきました。多くの参加者、見学者にお越しいただき、大変盛り上がったイベントとすることができました。

「(3) 外部連携による集客推進」の「①部局内、他部局、その他団体との連携」については、昨年度まで「庁内イベント、取り組みに対する企画展観覧券等の協賛」とまとめて記載していましたが、今年度からできる限り、具体的に記載するように変更しています。

4ページをご覧ください。「(4) 団体集客の推進」について、コロナ禍が終息したこともあり、夏シーズンに多くお越しいただき、9月末までで210件 約7,400名となっています。昨年度は同時期までで3,300名程度でしたので、倍以上に増えていることとなります。

5ページをご覧ください。【年間観覧者見込みに対する達成状況】の表にございます通り、9月までの半期で、見込み観覧者数の達成率は51.7%となっています。

〔事務局・日野原〕：6ページをご覧ください。「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」についてご報告いたします。

この項目は、美術館ボランティアに関する項目で、(1)から(5)まで目的別に組織された5つのボランティアグループの活動を評価対象としています。各ボランティアの活動状況については、グループごとにお示ししております。

まず、事業計画では、すべてのボランティアで活動を行っております。9月末の延べ参加者数は314人です。なお、資料では9月末時点の状況として「(1) ギャラリートークボランティア」に「再開に向けて、研修をはじめました。」と記載していますが、来館者向けのギャラリートークを11月5日に再開しています。また今年度は新規ボランティアの募集を行い、それぞれのボランティアグループで新規登録がありました。

続いて、7ページをご覧ください。達成目標についてです。ボランティアの活動者数とイベント等の参加者数もすべて含めて、1,700人を目標に掲げております。現段階で目標達成の可能性は予測しづらいのですが、11月以降、ボランティアによるギャラリートークを再開し、小学校鑑賞会での来館が本格化すること、また10月と12月にボランティアイベントを予定していることを考慮し、年度としては1,000人以上の参加になると考えています。しかし、4月30日実施のボランティアイベントが雨天のため規模を縮小したため、中間報告の段階では令和4年度に比べて人数の伸びはそれほどありません。

実施目標については、コロナ禍で中止や縮小したボランティア活動を再開したことで活動の機会が増える見込みです。

〔事務局・工藤〕：9ページをご覧ください。

「Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める」、「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」についてご説明いたします。

【事業計画】では、「1 展覧会事業」の、まず「(1) 企画展」についてご報告します。「③ロイヤル・コペンハーゲンと北欧デザインの煌めき」展が11月5日に閉幕し、「①没後40年 朝井閑右衛門展」から「③ロイヤル・コペンハーゲンと北欧デザインの煌めき」展まで、予定どおり開催いたしました。

10ページをご覧ください。「(2) 所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展」について、「①第1期所蔵品展」と「②第2期所蔵品展」を予定どおり開催いたしました。現在「③第3期所蔵品展」として「特集：勝又豊子」展を開催しています。

11ページをご覧ください。「2 教育普及事業」の実施状況について、ご説明いたします。「(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催」、「(2) ワークショップの開催」、「(3) 映画上映会の開催」、「(4) 学芸員による企画展ギャラリートーク」、「(5) 学芸員による展覧会の案内・解説」では、予定していたものについて、予定どおり実施しています。「(1) 展覧会関連の外部講師による講演会の開催」では、朝井閑右衛門展でコンサート、荒井良二展でライブペインティング、谷内関連でトークイベントを開催するなど、展示内容にあった新しい形式も積極的に取り入れる方向で事業を計画しています。

12ページをご覧ください。「3 美術館図書室運営事業」につきましても、当初計画どおり実施しています。

「4 調査・研究」について、今年度は特に横須賀・三浦半島ゆかりの作家として朝井閑右衛門展、勝又豊子展を開催しています。所蔵品では、屋外彫刻の若林奮《Valleys》に関連し、寄贈された約200点の《Valleys》関連ドローイングを整理し、第2期の特

集として開催しています。また、横須賀ゆかりの作家、写真家を調査し、作品購入に向けても検討を重ねています。

13 ページをご覧ください。達成目標について、令和5年度9月末までで、企画展満足度が88.8%となっています。こちらの収集方法ですが、アンケートは、従来の紙に加え、この8月から神奈川県電子申請システム e-kanagawa でも回答を受け付けています。展示を見た人に回答いただけるよう、アンケートページに接続する二次元コードは本館1階と谷内六郎館に設けたアンケートコーナーと地階の所蔵品展示室に掲示しています。

実施目標は例年通りの内容となっていますが、下半期も努めてまいります。

〔事務局・富田〕：「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。」についてご報告いたします。14 ページをご覧ください。

この項目の事業計画は、「1 学校との連携」、「2 子どもたちへの美術館教育」の2つに大きく分かれております。

まず、「1 学校との連携」については、1から6までのそれぞれの項目について実施状況を記載しております。学校の先生や学校の授業で来館する児童、生徒のための事業になりますが、計画したとおり、順調に実施しています。

「2 子どもたちへの美術館教育」については、家庭や子どもたち自身の参加を前提とした事業になりますが、こちらもほぼ計画どおりの実施となっています。「(3) 親子ギャラリーツアー」がまだ実施できていないため、年度後半に向けて計画を立てていきたいと考えています。

続きまして、達成目標についてです。中学生以下の年間観覧者数22,000人という目標ですが、令和4年度の9月末時点の数値5,935人に対して、令和5年度の9月末時点の数値は5,725人となっており、例年に比べやや低調です。

各展覧会の観覧者数が見込みを達成している状況ですので、中学生以下の割合が低いということになります。その理由としましては、こちらの想定以上に大人の方の来館が多く、観覧者数全体の伸びに対して中学生以下の観覧者数が伸びなかったということが考えられます。また、例年子どもの来館が多い夏休みの時期にインフルエンザの流行等の理由で保育園などいくつかの団体来館がキャンセルになり、その影響もあったと考えられます。

年度後半に向けた課題と認識しています。

〔事務局・日野原〕：17 ページをご覧ください。

「⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」についてご説明します。この項目は美術品の収集・保存・管理等に関する項目です。

まず、美術品の収集について、購入、寄贈、寄託を含む受け入れ候補作品について具体的な調査を進めており、美術品評価委員会を来年2月頃に開催する予定です。

所蔵品の管理について、世田谷美術館の麻生三郎展、福岡県立美術館の児島善三郎典、碧南市藤井達吉現代美術館ほかの須田国太郎展、東京ステーションギャラリーほかの春

陽会誕生 100 年記念展に対し、4 件 13 点の所蔵作品を貸し出しました。

環境調査について、2 回実施し、おおむね良好な結果を得ております。

美術品等取得基金については、令和 5 年度の写真作品の購入について、交渉を進めています。令和 6 年度の購入について、検討を進めています。また、寄付について、展覧会のチラシに案内を掲載するなど PR に努めております。

[事務局・下田哲]：19 ページをご覧ください。

「⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する」についてです。

1 の運營業務、2 の維持管理業務とも、現時点までおおむね順調に実施できています。令和 5 年度の主な修繕である本館屋根シーリング修繕は、5 月に実施済です。

20 ページをご覧ください。予定外の緊急修繕のうち主な案件を追加で記載していません。非常用発電機と空調熱源装置の修繕でおよそ 800 万円を支出しました。開館して 16 年以上が経ち、空調や電気設備、建具等の突然の不具合を中心として、計画外の緊急修繕が必要となる場合が増えています。修繕が必要となった段階で速やかに修繕を実施し、修繕が遅れることによるさらなる劣化や修繕費用の著しい増大を未然に防ぐよう、美術館施設・設備の適切な管理と維持に努めてまいります。

達成目標は、9 月末時点までのアンケート集計結果から、例年と同様に適切な取り組みができていると考えています。

[事務局・富田]：22 ページをご覧ください。

「⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」についてご報告します。

この項目は美術館のアクセシビリティに関する項目で、障害をお持ちの方など、従来は美術館に来にくいとされていた方に対する美術館からの多様なアプローチを評価する項目です。

状況としましては、ほぼ事業計画のとおり、問題なく実施できています。こちらは新型コロナウイルス感染症の影響を強く受け、事業の再開を最後まで慎重に見極めてきた項目になりますが、今年度に関しては、対面型の事業を再開することができ、計画どおりの実施につながっています。

達成目標を「福祉関連事業の参加者数延べ 175 名以上」と設定していますが、9 月末時点で参加者数は 100 名に達しており、安定していると考えています。

[事務局・下田哲]：25 ページをご覧ください。

「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」についてです。

電気、水道、事務用紙の使用量に関する達成目標に対して、令和 5 年度の半分が終了した 9 月末時点の数値を記載しております。総電気使用量は、「目安」の数値の半分を少し超えています。夏場の空調が多く電気を消費するため、例年どおりの傾向です。また、事務用紙使用枚数も半分を超えています。こちらも例年どおり、上半期に使用枚数が多いという傾向です。

実施目標に関しては、記載のとおりです。

以上で、事務局からの中間報告書に関する説明を終わります。

〔小林委員長〕：それでは、委員の皆様、事務局からの説明について、ご意見やご質問がありましたら、お願いします。

まず、「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」について、いかがでしょうか。

〔前波委員〕：外国の方への広報、情報発信はなかなか難しいところがあります。「国際交流・基地政策推進課を介した米海軍横須賀基地への展覧会情報発信」について、差し支えない範囲で、具体的な媒体や方法を教えていただけないでしょうか。

〔事務局・岡本課長〕：横須賀市国際交流・基地政策推進課を通じ、米海軍横須賀基地の広報担当や福利厚生担当に展覧会の内容を提供し、基地内の方に英語でお知らせをいただいています。

令和4年度に運慶展を開催した際は、副市長から司令官の方をご招待しました。

〔小林委員長〕：ロイヤル・コペンハーゲンと北欧デザインの煌めき展について、観覧した知人から大変素晴らしかったという感想をきいています。評判がよいですが、中間報告書には達成率21.9%と書いてあります。そのあたりいかがでしょうか。

〔事務局・岡本課長〕：見込20,000人のところ、9月末までに4,381人の観覧があり、ここまでの達成率が21.9%でした。11月5日に会期が終了し、最終的な観覧者数は18,489人で92.4%の達成率となりました。100%には到達しませんでした。評判がよく、特に大人の層に多くお越しいただいた展覧会となりました。

〔倉田委員〕：ロイヤル・コペンハーゲン展の最終的な観覧者数18,489人には、無料観覧日である11月3日に観覧した人の数も含まれていますでしょうか。

〔事務局・岡本課長〕：含まれています。

〔小林委員長〕：他にございませんか。では、よろしいですか。

〔小林委員長〕：「②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」について、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔小林委員長〕：「③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」について、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔小林委員長〕：「④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。」について、いかがですか。

〔三浦委員〕：中学生のための美術鑑賞教室について、夏休み期間中の参加者が保護者を除いて18名というのは少ないと感じます。小学校の美術鑑賞会は教育委員会と連携して行っているところだと思いますが、中学校のほうは教育委員会と連携しているのでしょうか。

〔事務局・日野原〕：中学校の教科研究会で特別講座を中心に広報させていただきました。

〔三浦委員〕：ここには人数が乗っていますが、市内の学校数にするとどれくらいが参加したのでしょうか。

〔事務局・日野原〕：横浜方面の中学校の生徒の参加が多かったです。

受付で鑑賞ガイドを配布していますので、講座には参加せずに鑑賞することもできます。父兄がついて講座に参加する中学生ははじめて横須賀美術館に来た生徒が多い傾向があり、市内の中学生は何度か横須賀美術館にきていて、ガイドを見ながら講座に参加せずに鑑賞している生徒が多い可能性はあります。

〔柏木委員〕：横浜美術館は休館中です。今までは大人向け、子ども向けといった形でワークショップを開催していましたが、休館中の現在は仮拠点にて、開館後の在り方の検討も含めて大人も子どもも楽しめるワークショップを開催しています。

横須賀美術館は市内学校と継続して連携してきていて高く評価できると思います。館の活動がポストコロナに向けてしっかりと始動してきていると感じます。

〔小林委員長〕：学芸員実習の受け入れについて、受け入れ先が減っているなかでこのように実施していただいていることはありがたいと思います。

〔小林委員長〕：他にございませんか。では、よろしいですか。

〔小林委員長〕：「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」について、いかがでしょうか。

〔柏木委員〕：基金が順調というのはとてもよいことでもあります。ロゴを活用した寄附のPRは美術館の媒体で行っているのでしょうか。

〔事務局・岡本課長〕：展覧会ごとに作成する広報印刷物に掲載しています。また、個人と法人のタクシー協会と連携し、市内を走るタクシー600台程度にロゴマークのステッ

カーを貼っていただいています。

〔柏木委員〕：購入によって所蔵作品数を戦略的に増やすというのは、美術館の基礎体力になっていくと思います。引き続き順調な状況が継続していくことを期待しています。

〔小林委員長〕：他にございませんか。では、よろしいですか。

〔小林委員長〕：「⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。」について、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔小林委員長〕：「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」について、いかがでしょうか。

〔前波委員〕：「みんなのアトリエ」について伺います。最近はみんなで一緒にやるインクルーシブという考えもありますが、一方で、対象が分けられていることで参加者がゆっくり落ち着いて楽しめる点もあると思います。「みんなのアトリエ」が障害児者向けのワークショップとなっている理由があれば教えてほしいです。

〔事務局・富田〕：「みんなのアトリエ」は開館年から実施している事業です。基本的に障害のある方とその家族を対象としています。理由としましては、お子さんを連れてその家族の方が安心して参加できる場というのを重視しているところがあります。申し込みのときに状況を詳しく聞き取りして、例えば会場のレイアウトを変更したり、ボランティアを増員したりして対応するなど、細かく対応しています。一般のワークショップに障害のある方が参加されることはもちろんありますが、一般のワークショップでは参加しにくいと家族の方が懸念されるケースにおいても、安心して楽しめる場が必要ではないかと考えています。

〔小林委員長〕：他にございませんか。では、よろしいですか。

〔小林委員長〕：「⑧事業の質を担保しながら、経常的な視点をもって、効率的に運営・管理する。」について、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔小林委員長〕：それでは事務局に戻します。

#### 【7 その他（1）今後のスケジュールについて】

〔小林委員長〕：それでは、次の「7 その他（1）今後のスケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

〔事務局・下田哲〕：それでは、資料5「運営評価委員会スケジュール」をご覧ください

い。

本日令和5年度第2回会議では、令和5年度の事業について、中間報告という形で進捗状況の報告をさせていただきました。この会議で委員の皆様から頂戴したご意見を参考に、年度後半の事業を進めてさせていただきたいと考えております。

そして、3月に予定しております第3回会議では、令和6年度事業計画の案をお示しする予定でおります。

新年度になりましたら、令和5年度事業について事務局が一次評価を行いますので、委員の皆様は二次評価の依頼をさせていただきます。

令和6年度第1回会議で二次評価を確定させ、令和5年度運営評価報告書として公開していきます。

運営評価委員会のスケジュールについては、以上です。

[小林委員長]:今後のスケジュールについて、委員の皆様から何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは事務局に戻します。

#### 【7 その他（2）横須賀美術館モニター制度の実施案について】

[小林委員長]:それでは、次の「7 その他（2）横須賀美術館モニター制度の実施案について」事務局から説明をお願いします。

[事務局・下田哲]:本日ご欠席の菊池委員からご提案いただいた内容になります。

本日はこの実施案をご確認いただき、よろしければ、令和6年4月から実施したいと考えております。

展示内容、スタッフ、施設、印刷物等に関して、意見を継続的に収集することを目的としています。

募集人数は初年度ということもあり、10名とさせていただいています。

住所や勤務先は応募の要件にはしていません。

定員以上の応募があった場合には抽選の旨を記載して募集いたします。抽選時に年齢や性別がなるべく偏らないように実施したいと考えております。

モニターの任期は1年を予定しています。

広報よこすか、館内に掲示するポスター、美術館の公式 SNS 等での募集を考えています。ウェブ上で氏名、住所、性別、年代等を入力していただく応募方法を考えています。

謝礼や交通費の支給はしない前提ですが、特典として、横須賀美術館年間パスポート1枚を提供したいと考えています。

調査票の回答はウェブ上で、記名式で考えています。現在行っているアンケートは選択式が多いですが、モニターの調査票では自由記入式の部分を多くすることを考えています。3月の会議で案を提示してご意見をいただきたいと思いますと考えています。

[小林委員長]:今の説明について、委員の皆様から何かありますでしょうか。よろしい

でしょうか。

それでは事務局に戻します。

〔事務局・下田哲〕：ありがとうございます。菊池委員には別途ご意見をいただき、2月には募集を開始したいと思います。

〔事務局・岡本課長〕：長時間に渡り、本日は、ありがとうございました。本日いただいたご意見をもとに、引き続き取り組んでまいります。

委員の皆様におかれましては、令和7年9月末までの2年間の任期となりますので、引き続きどうかよろしくお願いいたします。

本日は、本当にありがとうございました。

**【閉会】**